

# 令和5年度第1回小浜市地域公共交通会議 議事録

1 日 時 令和5年7月26日(水) 14:30～16:30

2 場 所 働く婦人の家 3階 大会議室

3 出席者 **《委員》23名、欠席3名**

川本義海会長、野村徳夫副会長、大井幹夫委員、中島史郎委員、今井正美委員、岩崎育巳委員、北林荘八委員、向平章浩委員、森健次郎委員、治部淳委員、森本幸夫委員、岩本昌樹委員、小林正尚委員、小林博之委員、五十嵐重晃委員、田中博委員、川畑隆弘委員、竹本雅之委員、清水雅彦委員、野村和司委員、寺前奈美委員、廣瀬貴之委員、松見一彦委員

<事務局>

小浜市新幹線・交通まちづくり課

4 議事次第

(1) 開会

(2) 議事

(報告事項①)

小浜市の公共交通の現状について

(報告事項②)

コミュニティバスの運行形態見直しについて

(3) その他

(4) 閉会

## 5 議事

### (1) 開会

#### 【会長・副会長 選任】

事務局：会長・副会長の選任について、本会の会長は、福井大学大学院教授・川本委員にお勤めいただきたいと存じますが、皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

なお、副会長につきましては、内外海コミュニティセンター長の野村様をお願いさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

#### 【会長挨拶】

本日は、今年度第1回目ということですが、前年度6月に小浜市地域公共交通計画を策定いたしましたので、その計画に沿って進めていくこととなります。

また、昨年行いました市街地循環バスとデマンド交通の2種類の実験について、今年の3月に報告をさせていただいたところです。本日の会議でそのあたり触れるところもございます。1年間の間で進んだこと、これから取り込まなければいけないこと、色々あるかと思っておりますので、忌憚のない意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。

#### (報告事項①)

#### ○地域公共交通会議とは

【中部運輸局・福井運輸支局】「活発で良い議論ができる会議のために」のパンフレットをもとに説明

#### ○小浜市の公共交通の現状について

【事務局】資料に沿って説明

#### 【会長】

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いたします。

#### 【委員】

資料P13の乗降調査の実施日について、令和4年度は2月、令和3年度は11月に調査を実施していますが、時期をそろえた方がよいと思っております。令和4年度が2月の理由を教えてください。

#### 【事務局】

乗降調査ですが、従来は11月に実施しておりますが、ちょうどその時期に実証実験をやっておりますので、昨年度については2月に調査を実施しました。今年は例年どおり秋頃に調査したいと考えております。

#### 【会長】

令和4年度は11月に実証実験があったので、通常と違う状況の中で調査するのではなく、2月に調査を行ったということですね。

#### 【委員】

高齢者自主返納者への支援の中で、あいあいバスの1年間無料、タクシーチケットまたはバスの回数券1万円分というものがありますが、まずこの1年間というのは自主返納をした時期からの1年間なのか教えてください。また、タクシーチケット、バスの回数券は期限があるのか教えてください。最後に、支援をした方の利用割合がわかれば教えてください。

**【事務局】**

あいあいバスの1年間無料パスカードは、申請されてから1年間となっています。タクシーチケットについては、申請があった年度から3年を有効期限としております。また、資料の実績に上げているタクシー85件とバス9件というのは、この事業を担当している生活安全課に申請があった件数となっております。大変申し訳ありませんが、利用割合については手元にデータがないのでお答えすることができませんのでご了承ください。

**【委員】**

わかりました。なかなか利用された割合の把握は難しいと思いますが、せっかく受け取った方が利用されないのも無駄になっているので、その辺り何か対策があればと思いました。

**【事務局】**

今こちらで把握しているデータは、利用された際の助成金額、市から事業者を支払っている金額のみのため、何名がどう利用されたかというデータがありません。おそらく利用人数等のデータが原課の方にあるかと思うので、確認しまして今後お示ししていきたいと思います。

**【会長】**

今のご質問は、申請件数のうち利用実績はどれだけあるかがわからないと手が打てないという趣旨で言われたと思いますので、次回の時に示していただけるといいと思います。

**【委員】**

15Pのあいあいバスの運行状況の推移を見せていただくと、令和元年度から乗車人員がだんだん落ちていっております。嶺北の路線バスはコロナになって平常の5～6割に落ち込んだが、8割くらい戻ってきているとお聞きしており、7Pの西日本JRバス若江線も昨年度は戻ってきていると見受けられます。あいあいバスが落ち込んでいっている要因をどのように分析されているかと、今後の対応をどのようにお考えか教えていただければと思います。

**【事務局】**

要因としてまずコロナもありますが、学生数が少なくなっていることもあるかと思います。また、コロナ禍においてバスなど定期利用されていた学生が家の人に送ってもらう傾向もあると考えられます。今後は、コロナ禍も収束に向かっておりますので、啓発活動等で利用を戻していきたいと思っております。また、今後の対策は、今現在進めている検証も含め、順次検討してまいります。

明確な答えは今持っていないわけですが、今後、少子高齢化のなかでどう乗客を戻していくか、どうすれば公共交通を使っていただけるか、引き続き検討を進めてまいります。

**【会長】**

利用者の8割が学生なので、そこが一番効いており、子どもの数が減っていることでベースが少なくなっているといえます。また、高齢者がコロナ禍で外出を控えており、まだ乗客が戻っていない部分もあります。JRの場合は、仕事等の勤務で使われる方もおり、いろいろな世代を乗せていると思われる。子どもが減って利用者が減るのは当然ですが、本来使われている方が使えなくなることや、潜在的に使う人が増えているにもかかわらず利用人数が増えてこない方が質的に問題なので、そのあたりを分析しなければいけないと思います。

**【会長】**

それでは、先ほど小浜市地域公共交通計画の中の取組みについて、4年度の事業と5年度の事業予定を確認いただきましたので、このような形で進めさせていただきたいと思います。

## ○嶺南地域公共交通網形成計画の取組みについて

**【事務局】** 資料に沿って説明

**【会長】**

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

**【委員】**

利用促進の助成に親子乗車助成金があり、昨年度から実施されていますが、周知はどのようにされているのか教えてください

**【事務局】**

周知については小浜市のHPで掲載を行っており、広報おばまでも毎年度初めに助成金の簡単な説明を掲載しております。また、あいあいバスにデジタルサイネージがあり、そこでも掲載しております。

**【委員】**

個人的に知らなかったもので周知の方法が他にもいろいろあるのではないかと思います。例えば子ども会で日帰り旅行に行きますが、そのような団体へ周知ができれば、もっと小浜線を使おうと思えるのではないかと思うので、周知方法を考えてほしいと思いました。

**【会長】**

ちなみに、HPはいつでも見られると思いますが、小浜市の広報へはどのタイミングで掲載されていますか。

**【事務局】**

広報は毎月25日に発行されており、年度初めの4月25日号に載せさせていただいております。

**【会長】**

親子乗車助成は子ども会で夏休みの旅行に行く時が狙い目かと思いますが、計画を立てる段階で助成金の話を知らないという活用ができません。タイミングを逃すと、もう決まっている、今から変えられないなどの理由で活用できないのかと思います。市民全体向けの周知はいいですが、ピンポイントで対象となりそうな団体等への周知は、適切なタイミングでの周知方法を検討していただきたいです。

**【委員】**

小浜線利用促進協議会の新規通勤定期利用者向けの定期助成で、令和4年度19件の実績がありますが、令和5年度の計画にない理由を教えてください。

**【事務局】**

小浜線利用促進協議会の定期助成については、令和2年度から実証実験的に実施しておりまして、令和2年度と令和3年度は通勤通学定期の1ヶ月分を助成いたしました。令和2年度、令和3年度の実績を見ておりますと通学定期の助成の申請が多かったため、小浜線利用促進協議会として通勤の利用を促したいという思いから、令和4年度は通勤定期に限り3か月分を最大で助成するという内容で実施いたしました。このように実証実験的に取組みを行いましたが、各市町でも定期券の助成を行っているため、今後は小浜線利用促進協議会の実証実験を参考に、市町で助成の継続の有無を判断し実施していただくという方針から、小浜線利用促進協議会として令和5年度の計画はなしとなっております。

## **(報告事項②)**

### **コミュニティバスの運行形態見直しについて**

#### **【事務局】資料に沿って説明**

#### **【会長】**

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

#### **【委員】**

コミュニティバスの運行形態見直しというのは、公共交通計画に基づいて実施していると思いますが、見直しというのが、デマンド交通および市街地循環バスの2つのことを捉えて見直しをしようというロジックに思えます。その中で利用された方々のヒアリングを行えば、「利用した結果はこうだった」ということになると思います。そこで、全体的にあり方、方向性を作っていくという部分の中で、この2つのことを捉えて検討していくということなのか、もう少し幅を広げて議論していくというスタンスなのかを教えてください。

#### **【事務局】**

まず、デマンド交通と市街地循環バスは、公共交通計画策定の段階で実証実験を行うことにした1つの例でありまして、実証実験の結果、デマンド交通が良かったかと言われると、全てが良いとは限らず、課題もたくさん残りました。そのためデマンド交通が小浜市の現状にあっているかの検証を今行っているところでして、もしデマンド交通が難しければ、他の運行形態についてもいろいろ検証し、その中のどれが一番小浜市にあっているかを検討してまいります。

#### **【委員】**

そういうことであれば、どういう形の議論を行っていくかをもう少しわかるように整理していただいた方がいいのではないかと思います。これは、昨年の実証実験の結果を踏まえて、それをやるかやらないかというような議論になっているような気がします。

公共交通計画に基づいた取組の中の、全体的なコミュニティバスの運行形態見直しを進めるという中での一つだとするならば、この手法がいいか悪いかはさておき、もう少し議論が広がるようなことを今後の取組の中に示していただけるとわかりやすいと思います。

#### **【事務局】**

まずは、昨年度からの流れということで、デマンド交通と市街地循環バスの有効性について今検討しているところでございまして、それがふさわしくないという風に判断された場合には、さらにより良い公共交通、例えば、最近ですと定額タクシーや自家用有償旅客運送などもあります。そういった様々な運行形態について、引き続き検討させていただきたいと思っております。

#### **【会長】**

今回の市街地循環バスとデマンド交通は、今まで小浜市の中で経験がなく、「他の市町では色々やっているのになんで小浜市はやらないのか」という話もあり、まずは1回やってみるという意味だったと思います。利用者からはやはり便利だという声は出てきていますが、便利だけでは運行できず運行費用が結構かかってしまうので、本当に続けていけるのかどうかを考えなければいけません。そのため今回は利用者の方々から声をいただき、ポイントとなる点を改めて確認して、できることをやっていくということだと思います。

また、市全体をこれで一気に変えるという話ではなく、まずは一部の地域から実施してみて、良い結果が出た時に、そこを本格化運行しバージョンアップしながら、他の地域へも広げていくということだと思います。他の地域についても、まずは実験地域から具体的に議論し検証しながら実施していくということを理解してもらう必要があります。実施場所だけの合意形成でなく、他の地域も同じよ

うに合意形成していかなければならないため、これまでの話しや、市民への伝え方、逆に関心を持ってもらうような進め方が、これから必要になると思います。

#### 【委員】

基本的に、この2つが良い悪いの話と経費がかかることの理由付けをするだけのものではなく、地域内の公共交通の一つの手段としての運用を整理しつつ、大々的にどう整備していくかを示した方がわかりやすいと思います。

#### 【会長】

重要なご指摘だと思いますので、そのあたりも合わせて考えていきたいと思っています。

今回の利用者ヒアリングは、三地区を私も一緒に回りました。アンケートをとっている内容と重複するところもありますが、生で聞けて良かったと思います。細かいところをきちんと拾って丁寧に対応していくことは大事だと思いました。ルートの話も、「乗らないところをわざわざ通らなくていい」とか、「年中同じやり方にする必要が本当にあるのか」などと意見が出たため、住んでる人ならではの感覚を活かして変えていくことが大事だと思いました。

今後は、取組みの中で書いてあるように、事業者や協力いただけそうな商業施設の意見を確認するのはもちろん、市民全体にもお声がけいただいて、具体的に走らせるならどうするか、地域の人はどう走らせたいか等を考えていきたい、市民参加型のワークショップを考えています。それを踏まえたうえで、10月の会議に今後の方向性をご指摘いただいたものも含め、位置づけと今後の動き方についてお諮りするという形を考えています。

#### 【委員】

川本会長のお話の中で1つお願いがあります。ワークショップに地域の人が参加すると話がありましたが、小浜市の公共交通計画の中で、「みんなで支え育む」とあるのだから、地域の人たちは何ができるか、自分たちはどうするかというところを、ワークショップの1つのテーマとして扱っていただけるとよいと思います。ぜひご検討のほどよろしく申し上げます。

#### 【会長】

「何かしてほしい」だけでなく、自分たちが気持ちよく使えるようにできること、自分が使わなくても近所で使いたい人や困っている人にしてあげられることなど、地域の皆さんもいろいろできることがあるんだと案を引き出せられるとよいですね。

例えば、バス停に何もなくて立っているのが辛いとか、雨の日に傘をさすのが大変とか、皆さん思われていると思います。それならば地域でベンチなどを作ればよいのですが、地域としてできてないこと自体が本当は問題かもしれません。どう走らせるかだけでなく、例えば「家の敷地内の空いているスペースを提供してベンチを置く」など地域の人が協力できる案を共有し、広めてもらい、地域に何らかの形で関わっていただけるといいと思っています。ぜひワークショップの材料とさせていただきます。

## 6 その他

#### 【委員】

小浜市地域公共交通計画の取組み一覧の8番「パーク&ライドで公共交通利用の推進」について、令和5年度の取組みに路線バス利用者向けに小浜駅前駐車場の助成とありますが、路線バスはどのバスを指すのかと助成の内容を教えてください。

#### 【事務局】

路線バスは流星号とJRバス若江線の2つを指します。助成の内容は、駅前の駐車場を利用し、そこ

からバスに乗り継いだ方を対象に、駅前の駐車場の利用料金最大500円分を助成するという内容になっております。

**【会長】**

他の皆様からご意見、ご質問はございませんか。それでは、本日の議事についてはすべて終了とさせていただきます。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

**7 閉会**

**【事務局】**

川本会長ありがとうございました。また、委員の皆様につきましては、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。今後の進め方、それから公共交通あり方、非常に難しい問題であります。また、深掘りを繰り返ししなければならないと考えておりますし、システムの問題、法的な問題、交通事業者様の運転手不足など課題も非常にございます。そういったことを踏まえまして、昨年度はデマンド交通および市街地循環バスの実証実験をやらせていただきましたが、あくまでも最初のアプローチとなっております。今後は先ほどのご意見も踏まえまして、幅広い議論に展開できたらと思いますので、ご協力をお願いします。

それではこれで令和5年度第1回小浜市地域公共交通会議を終了させていただきます。誠にありがとうございました。

以上